

ベトナム現地情報（2021.07.19）

ジャパン証券 北山亨

第9回「ハノイのメトロ」

今回は開業が延期されてきたハノイメトロについて取り上げる。ハノイではバイクや自動車の増加により、交通渋滞と大気汚染の緩和が長年の課題となっていた。

そこで問題解決のためにハノイメトロ（ハノイ都市鉄道）が設立された。同社はハノイ人民委員会の傘下であり、国営企業だ。ベトナムの交通機関はタクシーやバイクタクシーなど一部を除いて国が運営している。

10年目の完成へ

路線の一つである2A号線は中国から多額の開発援助を受けている。そのため、中国側の要請により、工事を中国中鉄（チャイナ・レイルウェイ）が、車両を中国中車が担っている。工事は2011年10月から行われており、今年で10年目となる。当初は2013年に完成予定だったが、何度も延期を繰り返し、現在も開業していない。今年4月にようやく外部の安全基準チェックを終えたが、コロナ第4波の到来により、国の最終チェックが延びている。しかし第3四半期の開業を目指しており、今月6日から駅構内の安全スタッフなど約80名の募集を開始するなど開業に向けて準備を進めている。



第2A線 始発駅のカットリン駅（3階建て）、車いす用のエレベーターも整備されている

2A号線の始発駅はカットリン駅という駅で、次に紹介する3号線との乗換駅でもある。筆者が7月15日に訪問した際は、駅の入口には警備員が座っており、関係者以外が敷地に入らないように見張っていた。



ハノイメトロの公式ホームページ。写真の車両は2A号線

多国籍で進める地下鉄工事

2A号線の他に、3号線も今年の第4四半期の開業を目指している。同線は郊外のノンと国鉄ハノイ駅を結び、高架区間と地下鉄区間が混在する路線である。メトロという名前から地下鉄を想像するかもしれないが、ハノイメトロは多くの区間が高架となっている。その理由として、ハノイがもともと湿地帯であり、地盤が緩いことが関係している。

難関の地下鉄区間は、韓国の現代建設とイタリアの Ghella 社が地元建設業者の FECON 社と共に工事を進める。さらに車両及び電気設備を ALSTOM 社、COLAS RAIL 社、THALES 社といったフランス連合が担う。目玉はフランスから船で運ばれてきた ALSTOM 社の車両だ。全10編成のうち、今月1日までに7編成が到着した。



試験運転中の ALSTOM 社の車両



現代建設、Ghella 社、そして FECON 社で進める地下鉄区間工事（3号線 キンマー駅周辺）

（中央）地下鉄区間のキンマー駅周辺には、ビンコムセンターなど大型商業施設が立ち並ぶ

3号線の高架区間は、韓国の建設大手である大林産業が携わる。このように3号線は中国企業が手掛ける2A号線と異なり、欧州・韓国企業がその存在感を示している。実際に3号線にはアジア開発銀行、フランス開発庁、欧州投資銀行、フランス政府が出資する。



安全点検か、線路を確認する作業員（3号線）

アジアで続くメトロ建設ラッシュ

ハノイはもちろん南部のホーチミンでもメトロの建設が進んでいる。これはベトナムに限ったことではなく、東南アジアの国々で交通事情の改善のためにメトロが導入されている。ここ数年では17年にマレーシア、19年にインドネシアで立て続けに開業している。

交通事情の改善の他にも、メトロ開通による経済効果は大きいと思われる。冒頭取り上げたハノイメトロでは、最終的に市の中心部と郊外の小都市を結ぶ全9路線が開通する予定だ。線路沿いの開発も進んでおり、駅前には大規模な商業施設やオフィス、マンションが建設されている。



駅前に商業オフィス、マンションが建つ3号線ハノイ国立大学駅



FLCグループ、バンブー航空の本社に面する3号線カウザイ駅

ディスクレーマー

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。